

令和6年度 学校教育自己診断の結果と分析

【全体】

・今年度、学校教育自己診断の回答率は教職員100%、生徒87.8%、保護者26.1%だった。回答方法がウェブ回答かつ保護者あてのお知らせが1回であったことが影響していると考えられる。スタディサプリでは、学校からの連絡配信が既読になったかどうかはわかるが、回答期日までに未読状態の保護者が半数いた。令和7年度では、回答期間中に再度配信し、回答率を向上させることが課題と考える。

・回答者の内容については、全体に前年度比で肯定的回答が減少している。回答として増えたのが「わからない」という選択肢であったため、学校として何を目的に何を行ってののかを生徒・保護者・教職員にわかりやすく示すことができるよう、更なる情報開示が求められている。

【学習指導等】

・「授業・指導方法の工夫」についての質問に対し、教員は肯定的回答率73%と6ポイント減少したが、生徒は78%と1ポイントの減に留まった。一方、「相互授業見学や校内研修が役立つ」は73%と23ポイント減少した。「一人一台端末の活用」は91%と5ポイント減少で減少幅は比較的少ない。「授業方法について検討する機会を持っている」は73%と16ポイントの減少であった。1人1台端末の活用の工夫を継続しつつ、観点別学習状況の評価の研究や、どのように授業実践につなげていくかというような観点で、教職員研修の内容を充実させ、教職員に対し、研修前に丁寧な趣旨の説明をすることが課題である。

・「到達度の低い生徒に対する学習指導」に関する質問に対し、教職員の肯定的回答率が昨年度の6ポイント減少に続き、50%とさらに14ポイント減少した。対象生徒の指導を仕組化する課題に対して、改善が滞っている。令和7年度では、教職員研修のテーマの一つとして、「教育相談の観点からの生徒理解」を設定し、改善を図る。

【学校生活等】

・「学校行事は楽しい」という質問に対し、生徒の肯定的回答率は88%と、昨年から微減であった。学校行事変更の際には、生徒への丁寧な説明を心がけ、現状の教員体制で取り組める内容を精選する。

・「部活動に力を入れている」という質問に対し、保護者からの肯定的回答率は70%と14ポイント減。生徒は72%で微減であった。生徒の入部率も下がっているが、入部している生徒は積極的に活動をしており、今年度は3年生の引退後に、新入部員勧誘希望が生徒発信で起こり、10月から11月にかけて「第2次ウェルカムウィーク」が実施された。働き方改革や教職員数の影響は大きいですが、持続可能な部活動運営を模索し、教職員の負担の偏りを減らすことを課題として、引き続き取り組んでいきたい。

【生徒指導等】

・「生活規律や学習規律などの指導は理解できる」という質問に対し、保護者からの肯定的回答率は81%、生徒は73%であった。本校の生徒指導の方針は一定の理解を得られていると思われるが、現状と時代の流れを検証しながら生徒・保護者への丁寧な説明と、規則の継続的な見直しを行う。

【学校運営等】

・「日々の教育活動における問題意識や悩みを気軽に相談しあえる職場の人間関係」という質問に対する教職員の肯定的回答率は70%（令和7年度比13ポイント減）、「教職員間の相互理解、信頼関係に基づいた教育活動」という質問に対する教職員の肯定的回答率は57%（同22ポイント減）と激減している。部分的な教科職員室制の現状では、初任者や新転任者にとって身近な相談相手がいない場合があり、不安を訴える教職員もいる。教職員全体の意見を参考にしつつ、職員室内で気軽に相談できるような部屋の配置を検討中である。

・「校長は教育理念や学校運営についての考え方を明らかにし、リーダーシップを発揮している」という質問に対する教職員の肯定的回答率は86%と3ポイント上昇した。引き続き、先生方の意見に耳を傾け、協力を仰ぎながら、令和7年度の学校経営計画に反映させ、学校経営を推進したい。

